

大 学 院 特 別 講 義

講 師 鈴木康広

鈴木康広「遊び」の成長史
～個人制作からパブリックアートへ

令和 7 年 11 月 11 日 (火)

17 時 40 分～19 時 10 分

場所：3 1 0 1 (3 号館 1 0 1 講義室)

対象：学生、教職員 ※学外者入場可



1979 年静岡県生まれ。2001 年東京造形大学卒業後、公園の遊具「グローブ・ジャングル」を使用した映像インスタレーション作品《遊具の透視法》(2001)、開いた目と閉じた目が描かれた紙の葉が「まばたき」をしながら空間に降り注ぐ《まばたきの葉》(2003) など、誰しもが持っている記憶や経験に新鮮な切り口を与える作品 を制作。船の航跡が海や川を開く《ファスナーの船》、地球の引力を「遊び」に変換 する《りんごのけん玉》など、身近な工業製品を媒介に、人間と自然を新たな視点から接続するアートを展開。主な個展として、2014 年に水戸芸術館での「近所の 地球」、2017 年に箱根彫刻の森美術館「始まりの庭」、2021 年にはティコティン日本 美術館 (ハイファ) にて海外の美術館で初となる個展を開催。主な国際展として、アルスエレクトロニカ・フェスティバル (リンツ、2002、2018) をはじめ、「Thermocline of ArtNew Asian Waves」(ZKM、カールスルーエ、2007)、セビリアビエンナーレ 2008、瀬戸内国際芸術祭 2010、第 4 回モスクワビエンナーレ (ARTPLAY、モスクワ、2011)、第 1 回ロンドン・デザイン・ビエンナーレ 2016 では日本代表として展示を行った。2014 毎日デザイン賞。主なパブリックアートに、《はじまりの果 実》(十和田市現代美術館蔵)、《渋谷の方位磁針 | ハチの宇宙》(渋谷区)。